

今回第 5 回 HOPE ミーティングに参加して得た経験や知見について記述します。第一に良い経験となったプログラムとして、ノーベル賞受賞者と 20 人程度の規模でグループディスカッションできたことで、研究面だけでなく人間性を理解することが出来た点です。私の場合、初日に利根川進先生とお話させて頂きました。利根川先生は話好きな方なようで、「私のここでの言葉に責任は持たない」と言いながら個人的な意見もたくさん聞かせて頂きました。なかでも私が今のうちに聞いておいて良かったと思える話として、ポスドクになった際の注意点でした。ここではあまり広めることも憚られる内容なので記載は控えますが、今後の進路選択の指針にしたいと考えています。また、小林誠先生には、普段から理論物理に関して疑問に思っていた質問をぶつけてみました。非常に不躰な質問ではありましたが、「今までの間違いであると確定した理論でロジックとして納得のできるものは数多くあるなか、成功した理論とのロジックの妥当性の違いもそう見られない。すなわち現実に即しているかどうかは運による部分はあるのではないか?」とお聞きしました。回答として、小林先生自身も理論の発表当初はそれが正しいと完全に信じているわけではなく、ロジカルに導出していった結果得られたもので、運による部分は多少あるかもしれない、とのことでした。間違った理論でもロジカルであることは当然なので、差が無いという回答だったと解釈しております。非常に面白い回答でした。この知見はやはり実験だけでなく理論の導出でも運に依る部分はあり、1%の可能性に 1 回チャレンジするか、10 回チャレンジするか、それとも成功するまで 100 回チャレンジするか、という考えのもと、やはり研究にコミットする量が成功には非常に重要であることが示唆されたと考えております。

また、その他にチームプレゼンテーションをミーティングの最後に行うために、チームメンバーと話したことが有意義な時間となりました。非常にチームメンバーに恵まれまして、メンバーに各国からのお土産を依頼したところ、皆さん快く承諾して下さいました。プログラム期間の早い段階からお土産を持ち寄ったパーティーをしたことで非常に友好的な関係を築く事ができました。そしてその楽しさをそのまま伝えるような、真面目な要素がほとんどない漫才形式のプレゼンテーションをしたところ、**Unique team presentation award** を頂くことができました。今回のチームメンバーとはとても仲良くなり、今後も連絡を取り合っていきたいと思えます。

他には海外に行った日本のポスドクの方々と仲良くなり、今もメールをやりとりできる関係を構築出来たことが良かったです。私がポスドクとして行く先の候補である大学に知り合いのいる方がおり、その人を通じて実際にその大学に通っている方にたくさんの質問をすることが出来ました。紹介して下さった方も非常に優しい方でして、聞いている以上の情報をたくさん下さいました。他にもポスドクになった際の注意点なども聞くことができたために、今後の進路に大きく影響を与えたと言えます。また、ポスターをお互いに見る時間は少なかつたものの、気になっていることだけは質問することが出来、研究面でも有意義な時間を過ごすことが出来ました。